

# 名誉市民に

# 今井政之さん



△記念として、今井さんから市へ「象嵌探黛変朱鷺大皿」が贈呈されました。

## 名誉市民

竹原市に在住または竹原市に關係の深い人で、産業、學術、技芸などに貢献し、その功績が特に優れ、郷土の誇りとして市民から深く尊敬されている人に対して、名誉市民の称号が贈られます。

平成24年3月の市議会で、陶芸家の今井政之さんを名誉市民に選定することが決まり、6月9日、市役所で、名誉市民称号贈呈式を行いました。

竹原市の名誉市民は、初代市長の有原明三さんに次いで、35年ぶり、2人目となります。贈呈式後の記者会見で、今井さんから、次のようにお言葉をいただきました。

## 名誉市民称号を受けて

今日まで、竹原と京都に窯をかまえ、創作活動を続けてきました。市民のみなさんから、ご支援・ご指導をいただいたからこそ、今の自分があると思っています。大変、感謝しております。

竹原には、江戸時代に築かれた文化・伝統があります。この文化・伝統を大切にしながら、陶芸を通じて、新しいものが生まれるようお手伝いしたいと思っています。これからも、初心にかえて精進し、みなさんのご期待に沿えるような活動をしていきたいと思えます。

## 竹原が作品に与えたもの

竹原は、風光明媚で自然豊かなところ。子どもの頃、釣場の海に行って泳いだり、魚を獲ったりしました。私の作品の中には、

そういった思い出を表現しているものもあります。陶芸に適した土もあり、竹原で育って本当によかったと、今改めて思っているところです。

## 今井 政之さん

(昭和5年12月25日生)

幼少期を竹原で過ごし、昭和22年に広島県立竹原工業学校(現竹原高等学校)を卒業。楠部彌弼に師事して陶芸の修行を積み、昭和53年に竹原市高崎町に窯を築く。象嵌法第一人者。

### 【主な受賞歴】

- 昭和34年 日本美術展覧会特選・北斗賞受賞
- 昭和49年 フランスバロリス国際陶芸展で名誉最高大賞受賞
- 平成3年 工芸美術日工会展で内閣総理大臣賞受賞
- 平成6年 京都市文化功労者表彰
- 平成10年 日本藝術院賞受賞
- 平成15年 広島県地域文化功労者表彰
- 平成20年 京都府文化賞特別功労賞受賞
- 平成21年 紺綬褒章受章
- 平成22年 旭日中綬章受章
- 平成22年 中国文化賞受賞
- 平成23年 文化功労者顕彰

# 竹原市歴史的風致維持向上計画が 国の認定を受けました

問い合わせ  
文化生涯学習室  
☎ 22-7757

平成20年11月4日に、「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律（通称…歴史まちづくり法）」が施行されました。

市町村は、この法律に基づく「歴史的風致維持向上計画」を策定し、国の認定を受けると、国の重点的な支援を受けながら、歴史的風致を維持向上するまちづくりを推進することができます。

竹原市では、この歴史まちづくり法に基づく「竹原市歴史的風致維持向上計画」を策定し、平成24年4月13日付けで国（国土交通省、文部科学省、農林水産省）に



▲津島国土交通大臣政務官から認定証を受け取りました（左から小坂市長、津島政務官、平谷尾道市長）

認定申請し、平成24年6月6日に計画の認定を受けました。

広島県内では、尾道市と同時認定で、初の認定となります。計画は、市ホームページ上で公開しています。

この計画に基づき、先人の人々が築いてこられた歴史文化に磨きをかけ、竹原らしい歴史文化のまちづくりを推進していきます。



## 歴史的風致とは

地域固有の歴史及び伝統を反映した人々の活動と、その活動が行われる歴史上価値の高い建造物及びその周辺の市街地とが、一体となって形成してきた良好な市街地の環境です。（歴史まちづくり法第1条）

## 先人達は 私たちに 何を託したか

④引き継がれるおもてなし！  
問い合わせ 文化生涯学習室  
☎ 22-7757

町並みの最古の建造物である元禄4年（1691年）建築の吉井家住宅をご紹介します。

**吉井家は竹原の総合商社**  
吉井家は、金融業・酒造業・製塩業などを手広く行い、一躍竹原で一番の商家に発展しました。

現代の総合商社のようなもので、屋号（家の呼び名）を、「米屋」と言いました。

また、吉井家は、商売だけではなく、竹原の最高責任者である町役人（町年寄）を務め政治にも貢献し、文化人への援助を行うなど、竹原文化の繁栄を大きく支えた功労者でした。

## 藩主が竹原で鷹狩り

戦国時代以後、大名に好まれた鷹狩り。民情視察や演習、そして娯楽を兼ねていました。織田信長や徳川家康などの武将も鷹狩りを好み、歴代の広島藩主も県内の各地に鷹狩りに出か

けていました。

竹原にも頻繁に立ち寄られ、藩主の宿（本陣）として指定されていたのが、吉井家住宅でした。

## 藩主専用のものが・・・

吉井家住宅には、藩主専用の門（御成門）、部屋（御成座敷）やトイレ（漆塗りの便器）やお風呂があります。部屋には、希少な材料を使い、細工を七宝のデザインに統一していました。また、藩主がいつ来られてもいように毎日掃除を欠かさなかつたそうです。

藩主が来訪の際には、吉井家の当主は袴を着用し、新町あたりまで出迎え、御成門を開けて歓迎したそうです。当主は、塩焼き鯛と酒でもてなし、接待費も自費で負担していました。吉井氏の心からのおもてなしにより、歴代の藩主が何度も足を運ばれています。

このおもてなしの心は今も町並み保存地区に受け継がれています。



▲御成座敷



▲七宝の文様